南の風
ふぇーぬ風
発行　〒901－1115
沖縄県南部農業改良普及センター
TEL：(098) 889－3515
FAX：(098) 835－6010

普及センター便り100号記念に寄せて

「普及所だより」第１号が昭和52年1月20日に発行されて、早、30年が経過しました。手書きの発行から各印刷会社の協力を得ながら、平成20年１月で100号発刊を達成することができました。第１号発行の頃の普及体制は地域改良課、専門改良課、生活改善普及課からなり、東風平支所もありました。主な記事はハウス野菜の管理や気象情報、病害虫予防、農繁期の食生活等が載せられ19頁のボリュームになっていました。2号目からは活字印刷に替わり2頁に納められています。

昭和56年には、普及指導活動の効率化と総合指導力を発揮するため、市町村担当制から本所を４課とし地域改良課、専門改良普及課、生活改良普及課の４課からなる指導チームを編成していました。そのため専門的な情報量が増え16頁に及ぶ「普及所だより」でした。昭和57年～62年までは4～6頁のパターン化された記事の配置となり「みどりの広場」がシリーズとして連載され「時の人」となる指導農業士や若いリーダーを紹介し、昭和57年～平成2年のシリーズ29で終了しています。

昭和60年普及組織が改正され具志頭支所が本所に統合され普及第１課～４課となり地域分担方式の市町村ブロック分担へと変わりました。

また、平成6年には農業改良普及所が普及センターに改称され、活動体制も地域分担方式から機能分担方式へ、より専門性が発揮されるように総合普及課、園芸普及課、作物畜産普及課、農村生活課になり、経営部門を特化した普及体制となりました。普及センターだよりも改称し「南の風」第60号が発行されました。

平成8年「南の風（フェーヌカジ）」第63号が２色カラー刷りになり明るく見やすいものに変わっています。名称も「ふぇーぬかじ」と字体をひらがなに変えソフトなイメージに変えて第66号～68号まで続いています。

平成10年第69号は「ふぇーぬ風」と漢字を加え字体も力強く動きのある表題になっています。

平成14年第80号からはパソコンによる画像の取り込みが容易になりオールカラーの写真入りでにぎやかな普及センターだよりへとバージョンアップしています。

平成18年行政改革による課体制からスタッフ制の班体制へと移行し、普及企画班、地域特産振興班、園芸技術普及班の３班となりました。消費者の視点に立った安全な農産物の供給体制の支援や拠点産地の育成及びさとうきび増産の支援など、地域に密着した活動の展開を実施しています。

また、新規就農者にスポットを当て、新規就農者紹介コーナー「がんばれ！ニューファーマー」をスタートさせています。

平成19年度は、さとうきびの新政策や農薬飛散防止など消費者ニーズに耐えうる生産現場の紹介に力点が置かれています。今後も時代の変化に対応した新政策や法改正のポイントについて、農家や農村地域に情報を発信していきたいと思います。

（普及企画班　垣花）

カボチャ栽培のポイント

今年も冬春期のカボチャの栽培が始まりました。次のポイントに気をつけて、高品質のカボチャを作りましょう。

●季節風対策

季節風（北風）に注意しましょう。強風にあたると、生長が停止するだけでなく、風擦れによって傷果や病害虫の発生の原因となります。

防風ネットを設置したり、あらかじめソルゴーなどの緑肥植物を植えておくことで、これらの被害を軽減できます。また防風ネットを設置したり、ソルゴーを植えることで、農薬飛散（ドリフト）防止の効果があります。

ソルゴーによる北風対策

防風ネットによる北風対策

●病害虫防除

病害虫の防除は発生する前に定期的に行うのが効果的です。登録農薬を必ず使用しましょう。定植時には粒剤を施用し、アブラムシを防除して、ウィルス病を予防しましょう。また農薬使用に合わせて、耕種的防除を行うと効果的です。

- **アブラムシ、コナジラミ：**
  シルバーマルチ、シルバーテープ、防風ネット、寒冷紗の使用
- **うどんこ病：**
  敷き草やマルチで雑草対策や乾燥防止

コナジラミ類

アブラムシ類

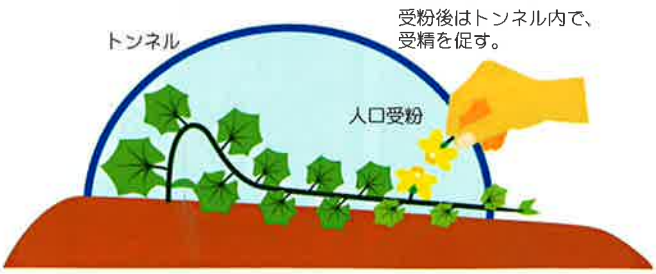
●トンネル内の温度管理

晴れた日などトンネル内の温度が30℃以上にならないよう、トンネルの南側を徐々に少しだけ開け、換気を行います。

カボチャのトンネルの開閉の様子

●交　配

冬季の寒い時期はミツバチ等の訪花昆虫があまり活発に動かないので、人工交配で確実に受粉させましょう。また着果には16℃以上の温度が必要で、交配後は花をトンネル内に入れ着果を促進させましょう。



11～13節目の雌花を着果させる。

（園芸技術普及班　小林）

マンゴーの品質向上大作戦!!!　着色技術編

赤尻マンゴー（秀品）への道

赤尻マンゴーをつくるためには、

1．果実に光を当て、色のりを良くする。
→管理作業の徹底

2．病害虫の被害（アザミウマ類、炭疽病、軸腐れ病等）の被害を無くす。
→農薬による適期防除、ハウス内環境の改善

ことが大切です。

今回は、**「1．果実に光を当て、色のりを良くする」**ための管理作業を紹介します。

お尻まで真っ紅な赤尻マンゴー

1 樹を低く仕立てる

花芽が出る前（12月～１月）までに、樹の高さが低く揃うように枝を誘引し、樹形をテーブル状にする。

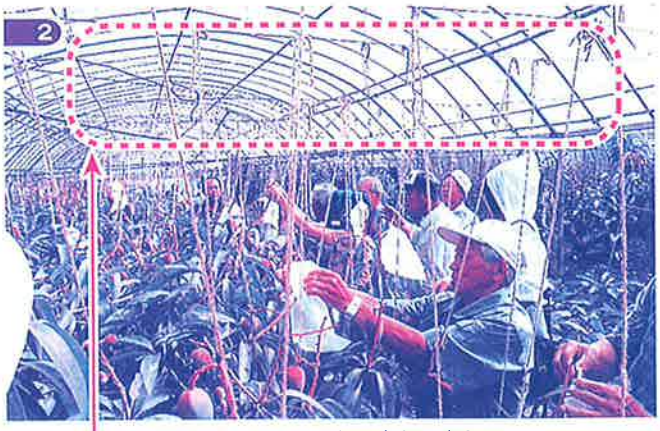
➡実吊りの際に、果実が葉陰に隠れないようにするため

樹を囲むと、みんなの顔が見えるような樹づくり

2 吊り棚をしっかり準備する

花吊り前（２月）までに、エクセル線やワイヤー等で吊り棚を前後左右30cm～50cm間隔程度にたるみがないようにしっかり張る。

➡しっかり張らないと、実吊り後果実が肥大してくると、果実が垂れ下がって葉陰に隠れてしまうため。
また、前後左右に細かくエクセル線等を張ることで、実吊り位置の調整がしやすくなる。



吊り棚は、なるべくたるまないように！

3 均一の高さで花吊り、実吊りを行う

花穂や果実に光が当たるように高さを揃えて花吊り、実吊りを行う。

実吊りの高さが揃っていないと、品質にバラツキがでてくる。葉陰に隠れている実は赤くならず、黄色くなる。

果実に光が当たるような実吊り

赤尻マンゴーをつくるためには、基本的な作業を１つ１つ丁寧に行うことが大切です!!

（園芸技術普及班　野原）

冬場の草地管理について

～ 畜産の安定経営をめざして ～

牧草収穫のない冬が、来期の収穫量を増加させるための草地の管理を行う良い時期です。

冬季は牧草の生育が遅く、堆肥などの有機物の投入が有効です。有機物の投入によって土壌の状態が改善され栽培期間の向上も期待できます。また、効果が化学肥料に比べて遅いため、冬の牧草の遅い成育にはあっており、化学肥料の投入回数も減らすことができ経済的です。

南部地域の基幹牧草であるローズグラスはジャーガルでは栽培期間は長いものの、経年化による生産低下が問題となっています。生産性低下の原因として、ローズグラスは土壌の酸性化には弱いため、化学肥料偏重による土壌の酸性化と草地管理の機械による土壌のち密化が疑われています。

生産性の低下を防ぐためにも、冬季の管理では、堆肥などの有機物の投入が重要です。
ローズグラスの場合、冬季の堆肥の投入量は、1t～2t/10aです。

しかし、牛糞堆肥は、リン、カリウムの含有が高く、窒素が不足がちになるので、窒素の補給を行うことが必要です。

また、硝酸塩障害を起こす危険があるので、窒素施用量を調整するために、窒素を化学肥料で7kg/10a投入しておきましょう。

牧草の密度がやや低下してきた場合は、牧草の追播が植生回復に有効ですが、牧草密度が低下した草地では、雑草の侵入が著しいため、表面播種しただけでは牧草の定着が図れません。

また、土壌の耕作を行わないと土壌が硬く、追播牧草の定着が困難であるため、除草剤により除草した後、土壌をロータベータ等で耕作して追播します。具体的には除草剤を用いた簡易更新（除草剤＋ロータリー＋整地・施肥＋播種＋鎮圧）を行います。土壌の流失を防止するため、天気を良く見て行いましょう。

土壌改良資材の投入や、牧草の被度が70%を下回り、雑草の被度が30%を越えた段階では全面更新を行ったほうがいいでしょう。更新する際は、表層の苦土の減少等によりミネラル組成が変化しているため、深耕を行うとよいでしょう。

その際、除草剤を利用して、雑草が更新後発芽してくることのないようにすることが必要です。
また、最終刈取り後や早春期に掃除刈りを行うことで、春の収穫で草の生育がそろい、増収が見込めます。

一部の地区では、冬から春にかけての粗飼料が少ない時期の対策として、ソルゴーとさとうきびとの輪作も行われており、春の粗飼料確保が行われています。
今後も畜産の安定的経営を目指して自給粗飼料の増産に取り組んでいきましょう。

適期管理で自給粗飼料を増産しましょう

（地域特産振興班　知念）

多角化経営による農家所得の向上と地域活性化をめざして
～なんぶグリーン・ツーリズム研究会活動紹介～

普及センターでは、農家の所得向上と農業・農村の良さＰＲ、地域活性化を目指して、グリーン・ツーリズム実践農家を育成支援しています。実践者養成講座で得た知識技術を活かして、グリーン・ツーリズム実践農家や志向農家で「なんぶグリーン・ツーリズム研究会」が結成されて３年目になります。

会員のネットワークを活かした実践活動として、「南部のはるみち～ふれあい農業・農村体験」を年２～３回実施しています。去る11月４日・11日・27日に第６回目のはるみち農業・農村体験が６コースで実施されました。糸満市の岸本ファームでは、ハーブの収穫と県産食材にハーブを活かしたバーベキュー体験、南城市のみどり農園では、ローゼルの摘み取りとジャム作り体験、園子さんのクレソン畑では、クレソンの収穫・植え付け体験と料理体験、八重瀬町のしらかわファームでは、ドラゴンフルーツのもぎとりとサワードリンクづくり、ぐしちゃんいも生産組合では、いも掘りといも料理の味わい体験、久米島町の農漁家民宿リゾートハウスみなみでは、ローゼル収穫と料理体験が実施されました。今回は各コース９～15名の参加人数でゆったりと対応することができ、和やかな交流ができました。家族連れで参加した方が多く、秋晴れの下、収穫に熱中している子、シリケンイモリを見つけた子等小さな発見に感動し、親子で農村の自然を満喫していました。農業体験後に生産物を使った料理を紹介したり料理体験が行われ、農産物のＰＲに繋がりました。

ところで、「南部のはるみち～ふれあい農業・農村体験」は定着しつつありますが、各受け入れ農家の年間の体験交流者はまだ少ない状況にあります。今年度は、体験メニューや受け入れ農家を広く知らせていこうと「南部グリーン・ツーリズムマップ」の作成と広報活動に取り組んでいます。マップは、実践農家11人の紹介と体験内容や所要時間、対応範囲等を春・夏・秋・冬の季節ごと、野菜や果樹等農作物ごとに分類してまとめています。体験参加者の希望内容に応じて、受け入れ実践農家が心のこもったおもてなしで対応しますので、どうぞ気軽にご利用下さい。

これからも農業・農村の良さを伝え、都市生活者に癒しの場や食育の場を提供すると共に、農家所得の向上をめざして活動を広げていこうと決意を新たにしています。

「南部のはるみちふれあい農業・農村体験」クレソン収穫体験
～園子さんのクレソン畑にて～

広報活動
～那覇市うないフェスティバルにて～

南部グリーン・ツーリズムマップ

★実践農家（11カ所）★

①リゾートハウスみなみ(農漁家民宿･久米島町)　②すこやか園芸(糸満市)
③いかや(糸満市)　④岸本ファーム(糸満市)
⑤しらかわファーム(八重瀬町)　⑥ぐしちゃんいも生産組合(八重瀬町)
⑦たまぐすく花野果村(南城市)　⑧園子さんのクレソン畑(南城市)
⑨ハーブの里みどり農園(南城市)　⑩カル･カフェ(農家レストラン･南城市)
⑪美花城牧場(酪農教育ファーム・南風原町)

【問い合わせ】なんぶグリーン・ツーリズム研究会
会　長／岸本 洋子
TEL.090-5388-2932(岸本ファーム)

（地域特産振興班　福里）

南部の離島情報

気象条件に恵まれ、今期の予想は22,000t、単収5.5t

～　北大東村、さとうきび生育状況　～

北大東村では台風の直撃が2年続けてなかったので、さとうきびの生育が順調である。しかし、降水量が少ない為干ばつを受けやすくなっています。

平成18年の降水量は1,043mmで、対那覇で比較すると50%しかなく、平成19年は1,268mmで46%と那覇の半分にも達していない状況。

平成18年は梅雨時期に大量の雨が降り、貯水池は満水となったが、その後干ばつ状態が続いた。平成19年は梅雨に雨が少なく、貯水池は60%程度しか達しなかったが、夏秋期の通り雨によって、葉枯れ状態を辛うじて回避できた。また、マリンタンクから点滴チューブを使ってかん水しているほ場では緩やかに生育を続けた。

マリンタンク

当村では「夏場にさとうきびがまっすぐ立って、葉が青々としているのはこれまで見たことがない。」との声も聞かれる。10月の生産量予測では単収5tだったが、10月下旬から降雨が多かったため12月には5.5tを見込んだ、最終の生産量予測を現在調査中で6t見込んでいる。3年前は台風の直撃を受け、単収は2.5tと落ち込んだ。

点滴チューブによるかん水

北大東村でのさとうきび生産は常に台風と干ばつによる自然の影響を強く受けやすい環境にある。台風による気象災害はどうにもならないが、水を確保することは可能であり、村では水の確保を優先課題としてため池の整備を進めている。

平成19年5月現在の整備率は面87%、ため池48%、畑かん7%となっている。今後は水源整備を順次進め、平成28年までには完了させる計画である。天からの恵みは漏らさず蓄え、有効利用できるようにすることが小さな島での農業を展開していく上で最も重要な事の一つである。村では実現に向けて着実に前進している。

北大東では今期製糖工場の操業開始は1月19日を予定している。

（北大東村駐在　桐原）

さとうきび増産に向けて、ため池工事が着々と進む（工事中のため池）

農漁村男女共同参画へのチャレンジ今！

平成19年度南部地区農漁村男女共同参画の取り組み

1．男女共同参画推進地区検討会の開催

南部地区の男女共同参画の促進を図るために、農漁村女性組織（５団体）の理事と女性農業委員代表、女性農林漁業士、農業委員代表、市町村担当者、普及センター等で構成している地区検討会が６月に開催された。

検討会では南部地区段階と市町村段階の男女共同参画推進ビジョン（指標及び目標値）を確認し、さらに目標を達成するための具体的な施策について話し合い、下表の目標達成について取り組むことになった。

■平成19年度女性の参画目標

指標／市町村	家族協定数	認定農業者数	審議委員数	女性起業者数	農林漁業者数
	女性の数				
豊見城	1	1	1	1	1
糸満市		2		1	
八重瀬	4	2	1	2	
南城市	1	2		3	
南風原		2		2	
久米島	1	2		1	
南大東			1	1	
北大東	1	1			
合計	8	12	3	11	1

2．地区農漁村男女共同参画推進大会の開催

地区農漁村女性組織連絡協議会は、男女共同参加の促進を図る目的で南部農業改良普及センターと共催し、10月3日に男女共同参画推進大会を開催した。今年はメインテーマを「前進！！男女（とも）に創ろう元気な農漁村」にし、参加者に男女共同参画社会の取り組みを伝えるために、サブテーマを「前進！！男女（とも）に築こう、農漁業の安定経営」として大会が開催された。

男女共同参画推進の宣言を行なう農村女性組織代表

大勢の参加で推進大会は盛り上がった

主な内容は(有)ファインフルーツ沖縄代表取締役社長の大城厚氏による講演「二人で歩んできた、私の農業経営」であった。さらに、女性組織の男女共同参画推進の取り組み宣言も行われれた。

3．離島地域にて要請活動を実施

農漁村女性組織連絡協議会は11月27日に南大東村長、議会議長、ＪＡ支店長に要請活動を実施した。離島地域の女性の認定農業者や農業委員の数が低いことから、農業生産や地域で女性がいきいき活躍できる環境づくりをしてもらおうと行われたものです。今回の要請活動は農業関連審議委員や経営面への女性参画について強く要請し、理解を深めて頂いたので、今後の登用に期待できそうと役員から報告があった。

4．女性の経営・社会参画は増加傾向

指標／年度	H17	H18	H19
家族協定締結数	121戸	135戸	145戸
女性認定農業者数	39人	56人	63人
女性農林漁業士数	6人	7人	8人
女性農業委員の割合	8.1%	9.7%	10.4%

5．今後の取り組み

女性の社会参画は社会的評価も高まってきています。これからは地域農業を支える担い手として、女性認定農業者の育成や女性の長所を生かした多様性のある新しい地域農業へのチャレンジが重要です。

（普及企画班　新垣）

平成19年度 沖縄県指導農業士等認定

「長嶺篤さん・長嶺幸雄さん・當間松枝さん」

平成19年度の沖縄県青年農業士・指導農業士及び女性農林漁業士の認定式が10月18日におきでんふれあいホールにて行われました。南部地区からは豊見城市の長嶺篤氏、長嶺幸雄氏・當間松枝氏の３名が認定されました。また、10月30日豊見城市役所において市長への認定報告式と激励会が開催された。激励会では豊見城市長、農業委員会、JAおきなわ豊見城支店長、豊見城市指導農業士・生活指導士、普及センター職員等31名が出席して３名を激励しました。今後の地域農業の中核的担い手と農業リーダーとして後継者育成への活躍が期待されます。（普及企画班　神谷）

市長への認定報告式

青年農業士：長嶺 篤氏

長嶺篤さんはＪＡ豊見城果樹部会より優良マンゴー農家として部会表彰されている。また市の農業青年クラブの副会長を1年間務めた。

女性農林漁業士：當間 松枝氏

當間松枝さんは、地域特産品づくりとマンゴーの栽培技術等の研究に力をいれ、拠点産地を支える担い手としてリーダー的な存在となっている。

指導農業士：長嶺 幸雄氏

長嶺幸雄さんは、マンゴー＋ミニトマトでマンゴーの加温栽培に取り組み、拠点産地における早期出荷の先駆けである。また新規就農予定者の研修受け入れも行っている。

がんばれ！ニューファーマー

「研修生から経営主へ　僕の新たな挑戦!」

～新規就農者紹介コーナー～
八重瀬町

取材の日、小菊の収穫、出荷作業に追われる三上大輔さん。今年からは研修生という立場から、経営主に進展！自分の腕が試されるだけあって、作業にも力が入っている様子でした。

三上さんは千葉県出身で、実家も農業を営んでおり、琉大農学部へ進学。実家の農業を継ぐことも考えましたが、沖縄の気候風土を生かした農業に魅力を感じ、沖縄美人（パートナー）との出会い、結婚も大きな理由だと思いますが、ここ沖縄で農業することを決意しました。そんなときタイミングよく、研修生を募集していた「花の民」の社長と出会い、研修生として小菊の生産に取り組み、２年間、学びました。

そして、小菊部門を社長から譲り受け、今年の６月から研修仲間と共同経営することになりました。新規参入の農業は、土地の確保や販路開拓など厳しい面もありますが、三上さんはラッキーなことに、順調に就農をスタートしました。現在、南部地区農業青年クラブの事務局長も務め、積極的に仲間づくりにも取り組んでいます。今後の目標は、現在の面積を５千坪まで拡大し、他品目にも挑戦したいと夢を語ってくれました。頑張れ！ニューファーマー！！

（普及企画班　根路銘）

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています